

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼間部		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	蘇生と救急処置		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期 火曜3, 4限	教室名	4校舎401
担 当 教 員	酒井 崇、他	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
医療の専門職として最低限必要となる、蘇生法・救急処置について学ぶ。学んだことを元の実技を交えて実践する。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末試験(筆記)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
応急手当講習テキスト 適宜プリント配布						
《授業外における学習方法》						
配布テキストを参考に救急処置の方法を復習すること。						
《履修に当たっての留意点》						
医療現場で心肺蘇生は必須の技能です。学生のうちから医療従事者として常にリスクのある方と接するという意識をもって緊急時の対応をしっかりと身に付けてください。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	応急手当の基礎知識、歴史を説明することができる。	PC、プロジェクター、配布資料、 応急手当講習テキスト	配布資料で該当項目を調べ、専門用語に触れる。	
		各コマにおける授業予定	手当とは何か、応急手当と救急処置、救命連鎖について学ぶ。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	心肺蘇生法を説明することができる。	PC、プロジェクター、配布資料、 応急手当講習テキスト	配布資料で該当項目を調べ、専門用語に触れる。	
		各コマにおける授業予定	嚥下の諸器官、仕組みについて学ぶ。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	救急処置を説明することができる。	PC、プロジェクター、配布資料、 応急手当講習テキスト	配布資料で該当項目を調べ、専門用語に触れる。	
		各コマにおける授業予定	応急手当と救急処置、救命連鎖について学ぶ。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚士の業務の中で救急処置に関する嚥下について説明できる。	PC、プロジェクター、配布資料、 応急手当講習テキスト	配布資料で該当項目を調べ、専門用語に触れる。	
		各コマにおける授業予定	心肺蘇生、AED、乳児に対する応急処置、止血法について学ぶ。			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	救急処置を説明することができる。	PC、プロジェクター、配布資料、 応急手当講習テキスト	配布資料で該当項目を調べ、専門用語に触れる。	
		各コマにおける授業予定	救命講習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	救急処置を説明することができる。	PC、プロジェクター、配布資料、応急手当講習テキスト	配布資料で該当項目を調べ、専門用語に触れる。
		各コマにおける授業予定	救命講習		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	心肺蘇生法を実践することができる。	PC、プロジェクター、配布資料、応急手当講習テキスト	応急手当講習テキストで該当項目を調べ、専門用語に触れる。
		各コマにおける授業予定	救命講習		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	AED使用を実践することができる。	PC、プロジェクター、配布資料、応急手当講習テキスト	応急手当講習テキストで該当項目を調べ、専門用語に触れる。
		各コマにおける授業予定	救命講習		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			